

令和7年度 市民文化祭(前期)事業

受講者募集

【講座】
第41回

安蘇の風土と歴史

主催：安蘇史談会／佐野市文化協会 共催：佐野市 後援：佐野ユネスコ協会

日時

令和7年 7月5日(土)⇒7月26日(土)

【毎週土曜日】午後1時30分～午後3時30分

場所

佐野市中央公民館

(佐野市物産会館3階 佐野厄よけ大師前)

佐野市金井上町2519 ☎0283-24-5771

◎演題・講師

7/5(土)

「唐澤山城の歴史」

(公財)佐野市民文化振興事業団事務局長 出居 博 氏

7/12(土)

「両毛鉄道と安蘇馬車鉄道・佐野鉄道」

安蘇史談会会員 茂木 克美 氏

7/19(土)

「大田南畝(蜀山人)と新楽閑叟(馬門・愛閑堂主人)
—江戸第一の文人と佐野市出身の探検家・医師—」

大田南畝(1749～1823)は、御家人という微官(御徒)ながら、十代より狂詩作者寝惚先生として全国に名をせ、その後は狂歌作者四方赤良として一派をなし、後に蜀山人と名乗った。一方有能な官吏として、孝義録の編纂や大阪・長崎へ出役している。全集(二十巻)が刊行されたが、江戸時代の事を知ろうとする人には欠かせない江戸第一の文人である。

新楽閑叟(1764～1827)は南畝同様に幕府の微官であったがその名を知る人は少ない。佐野市越名馬門を郷里に持ち、寛政応試に及第する有力者でありながら、及第後数年で家督を継ぐ金十郎に譲り、足利・出雲崎・水戸などを巡り、後には箱

江戸文人研究家 長澤 和彦 氏
(安蘇史談会会員)

館奉行の雇医として蝦夷地からエトロフ島まで二度従事し、文化四年にロシア人のエトロフ島攻撃の第一報を送った。出版物はないが、多くの書簡類が平田篤胤編「千島の白浪」に収められ、また七弦琴に関する重要な著作などを行っている。

今回は、新楽閑叟について今まで知られていない栃木県との関わりやその業績、及び大田南畝と縁戚関係にあることなどについて触れる予定です。

7/26(土)

「鐙塚町の古代から現代まで～伝承の世界を含めて～」

安蘇史談会会員 大川 圭吾 氏

※資料代として、1,000円(4回分込み)を、当日会場受付にて頂きます。

学生無料

お申込みはこちら▶

佐野市文化協会

検索



電話でお申し込みの場合は、氏名・連絡先をご連絡ください。なお、当日、会場受付でも受け付けます。

お申込み・お問い合わせ

安蘇史談会 (海老原 脩治)

〒327-0312 佐野市栃本町2391-1

TEL 0283-62-0227